

# 九州北部地方の例年の天候経過

前線や低気圧

太平洋高気圧

前線や台風

4月

5月

6月

7月

8月

9月

4日ごろ

平年の梅雨の期間

大雨が  
最も発生  
しやすい

19日ごろ

雷雨が発生しやすい

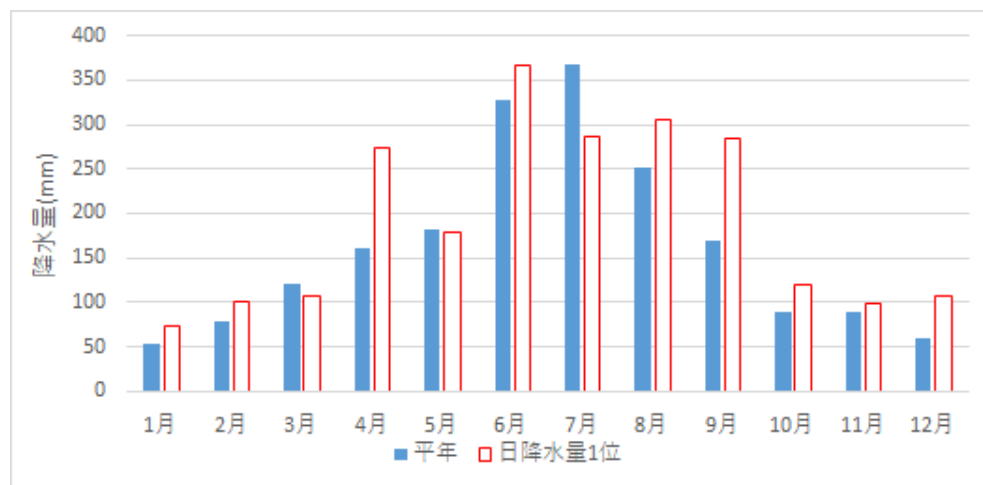
昨年（令和5年）

梅雨入り 5月29日ごろ

梅雨明け 7月25日ごろ

佐賀の6月・7月合計の降水量の平年値は約690ミリ。年降水量の3割がこの時期に降る。(年降水量約1,950ミリ)

【佐賀】 月別の降水量平年値と日降水量1位



# 向こう3か月の天候の見通し（6月～8月）

## 平均気温・降水量

令和6年5月21日  
 福岡管区気象台発表

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は**高い**。
  - 向こう3か月の降水量は、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、**平年並が多い**。
- ※また、近年の雨の降り方は「局地化」、「集中化」、「激甚化」していることに留意

**梅雨期は平年並が多い。  
 しっかり降ります！要警戒！**

	6月	7月	8月
気温	低 並 高 (%)	低 並 高 (%)	低 並 高 (%)
	高い 20 : 30 : <b>50</b>	高い 20 : 30 : <b>50</b>	高い 10 : <b>40</b> : <b>50</b>
降水量	少 並 多 (%)	少 並 多 (%)	少 並 多 (%)
	平年並が多い 20 : <b>40</b> : <b>40</b>	平年並が多い 20 : <b>40</b> : <b>40</b>	ほぼ平年並 30 : <b>40</b> : 30

1か月予報(6/8～7/7)  
 ※6月6日発表

観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和4年6月から、線状降水帯による大雨の可能性の半日前程度前からの呼びかけを、令和5年5月から、「顕著な大雨に関する気象情報」（線状降水帯の発生をお知らせする情報）をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。

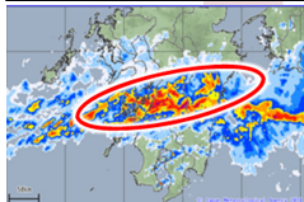
令和6年5月27日からは、令和4年度から開始した半日前程度前からの呼びかけを府県単位で実施。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

「明るいうちから早めの避難」・・・段階的に対象地域を狭めていく

令和3(2021)年

線状降水帯の発生をお知らせする情報  
(令和3年6月提供開始)



線状降水帯の雨域を楕円で表示

令和4(2022)年～

広域で半日前から予測  
(令和4年6月提供開始)

今年度の新たな運用

令和6(2024)年～

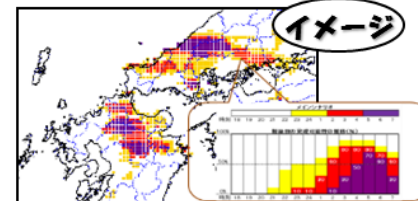
府県単位で半日前から予測

次期静止気象衛星  
(令和11年度運用開始予定)



令和11(2029)年～

市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



令和5(2023)年～

最大30分程度前倒して発表  
(令和5年5月提供開始)

令和8(2026)年～

2～3時間前を目標に発表

線状降水帯の雨域を表示

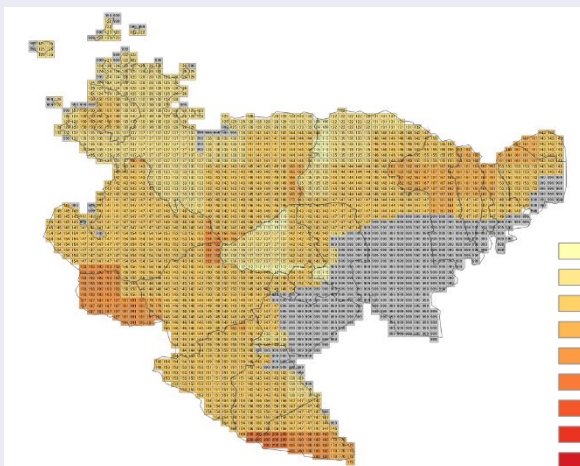
「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に情報の発表を早めていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

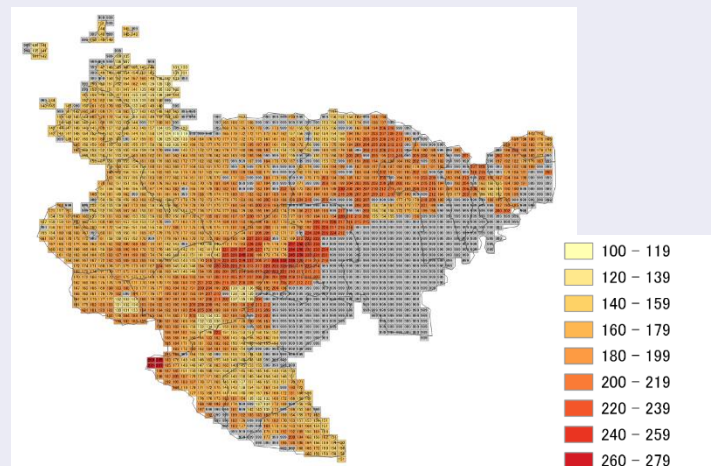
国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

- 佐賀県により土砂災害警戒情報の基準が見直されました。
- 気象台にて、大雨特別警報、警報、注意報の土壌雨量指数基準を変更しました。

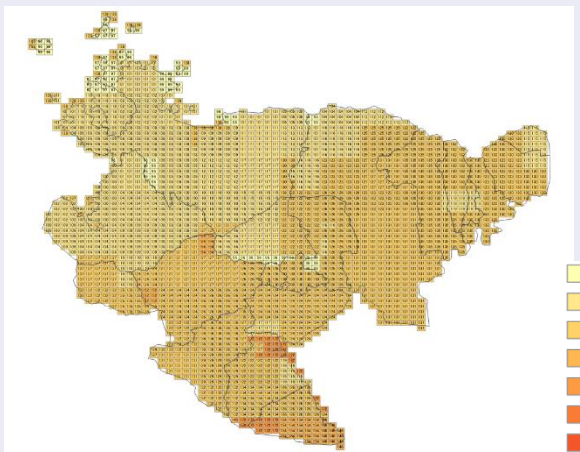
大雨警報  
旧基準



大雨警報  
新基準



大雨注意報  
旧基準



大雨注意報  
新基準

